



「JSRグループ CSR Report 2012」

第三者検証 意見書

2012年7月5日

JSR株式会社
取締役社長 小柴 満信 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

高瀬 純治



■検証の目的

レスポンシブル・ケア報告書検証は、JSR株式会社が作成した「JSRグループ CSR Report 2012の冊子版及びWEB版」(以後、報告書と略す)に記載されている、下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動およびCSR活動の評価
- 4) 報告書の特徴

■検証の手順

- ・本社において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに各業務責任者及び報告書作成責任者より資料提示・説明を受けることにより行いました。
- ・鹿島工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。鹿島工場の調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び鹿島工場において、RC マネージメントの範囲では合理的な方法を採用しています。今後その他の数値の集計方法の改善を期待します。
 - ・調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計しています。
- 2) 記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の解り易さに関し、若干の指摘をしましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンシブル・ケア(以後、RCと略す)活動およびCSR活動の評価について
 - ・RC 活動の重要な取り組みの一つである「経営トップのリーダーシップ」について、社長が毎年事業所の環境・安全監査を実施・講評されていること、また「CSRレポートを読む会」で、社長の強い思いを従業員に語られていることを評価します。
 - ・大規模災害対策で高圧ガス設備をはじめとして、ハード・ソフトの両面から継続的に取組まれ、特に3・11の大震災時、大きな直接的な被災は免れたことを評価します。
 - ・「E2 イニシアティブ」の取組で製品開発のチェック指標に使用段階までの「LCA 評価」を実施していることを評価します。
 - ・2011年度休業災害が発生しています。再発防止対策を風土改革活動と一体化し今後のゼロ災への挑戦に期待します。
 - ・鹿島工場では、PRTR・VOC 排出削減に積極的に努力していること、また地域とのコミュニケーションの充実に努力していることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・特集欄で事業活動を通じた生物多様性保全への具体的な取り組み内容が記載されていることを評価します。
 - ・社会貢献活動が多様化され、毎年充実した活動内容を記載していることを評価します。

以上